

令和3年度 学校評価自己評価表(中間)

学校教育目標	学校教育目標 自ら学び、考え、行動ができる「きさ」の子どもの育成
重点目標	心と志(自立と貢献)を育てる学校

学校関係者評価委員(評価)
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

経営目標			評価指標	具体的な取組・方策	自己評価			学校関係者評価委員		
中期	短期	8月			分析(成果と課題)	改善方策	評価	記述(成果・課題)		
		達成値	達成度	評価						
生きる力の育成	確かな学力を育成する	学習規律を定着させる。主体的・深い学びの充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律が身に付いた児童を90%以上にする。 自分の考えを伝えることができる児童の割合を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ベル着」「次の学習準備をする」「号令前後の静止」の徹底を図る。 課題意識を明らかにし、自分の考えを持ち、それぞれの友達の考えや思いと自分の考えとの相違点を考える主体的・深い学びの充実を図る。 	89.3%	99	B	<ul style="list-style-type: none"> こまめに評価や振り返りを行うこと、重点的に取り組む期間を設定して取り組むことを継続していく。 児童が意欲的に課題発見できる授業づくり、自分なりの考えを持って発言するための各時間、伝え合う時間を十分に設定した授業づくりを行う。思考の場としてのノートの活用を進めていく。ペア学習、グループ学習を取り入れ、自分の考えを伝える場を増やす。朝の会などを利用したスピーチをする場を設定し、継続していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律は、学力向上及び生徒指導上の基本にもなるので粘り強く指導をしていってください。(低学年が大変でしょうが、肝心だと思いました。) 相手意識をもった発表の仕方、声の大きさを小中で一緒に取り組んでいけたらと思います。 姿勢が崩れやすいのは、体のかたまり具合があると思うので、低学年は特にほぐすことができますはいるのかと思いました。 学習規律が弱いと感じました。
		学力を確実に定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ①全教科の単元テストで80点以上の児童の割合を各学年85%(昨年度81%)以上にする。 ②三次市学力到達度検査(基礎・活用)で、全国平均を上回った教科数の割合80%(昨年度85%)以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の特性を生かした指導を工夫改善し、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 ノート指導に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ドリルタイムやランチタイムスタディを機能的に活用し、基礎的な技能の習得や復習を図る。 	83.1%	98	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の力をつける授業づくりをしていく。ドリルタイム・ランチタイムスタディを活用し、基礎学力の定着を図る。iPadを活用し、個に応じた指導をしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「読み書きそろばん」ではないですが、反復学習でしっかり身に付けさせるべきことは、どの子にも定着を図りたいものです。 ドリルタイム、ランチタイムスタディでの学習の強化をしておられ、良いと思いました。 空き時間を使い、個々に応じた取組をしていただいているのは、良いなと思いました。
		自学力を育成する。(小中一貫教育)	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習に取り組む児童を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えの根拠を明確にしなが、全ての児童の「わかる・できる」を保障する。 家庭学習で予習や復習などの自主学習に取り組ませる。 	70.3%	88	B	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習の内容の参考となるものを提示していく。自主学習用のプリントを用意するなどして、個の力に応じて取り組めるような工夫をしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> まずは時間(量)から、そして質へと小中でいっしょに取り組ましましょう。 自主学習に積極的に取り組んでおられる。 自主学習は、小1から中3まで取り組んでおられますが、それが本当に学力につながっているのかそろそろ検証をする時が来ているのかと思います。 自学力の向上に向かって、さらなる研修、研鑽をお願いします。
豊かで健やかな心身を育成する	豊かな心身の育成	自己有用感の向上と礼節と規範意識の定着(小中一貫教育)	<ul style="list-style-type: none"> 自己有用感を持つ児童を80%以上にする。 あいさつのできる児童を85%以上にする。 規範意識をもつ児童を85%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さに気づき、伸ばし合いこうとする意欲や友達の良さを認められる児童を育てると共に、認め合い、つながりを深める集団づくりに努める。 道徳学習プログラム「吉(よ)き舎(やど)りプログラム」を計画実施し、自分との関りで考えさせる。 あいさつレベル(低学年 大きな声で挨拶をする。中学年 相手に伝わるように挨拶をする。高学年 場に応じた挨拶をする)に応じた挨拶ができる児童を育成する。 道徳科などとの関連を生かして規範意識の向上を図る。 アンケートやi-checkを分析し、PDCAサイクルで取り組む。 	90%	113	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などとの関連を生かした「吉き舎りプログラム」を計画し、自己肯定感の向上及び友達を認めていくことの大切さを考えさせる。また、「吉き舎りプログラム」の視覚支援を行うことにより、成長や考えの過程を自分のこととして考えさせていく。 今後も委員会活動の一環として継続して取り組み、他者評価や自己評価する時間を設定して、自己有用感をもたせていく。 規範意識について、「吉き舎りプログラム」の中で、他の道徳的価値との関連を生かしながら、規則の大切さや規則の意義についても考えさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内掲示物の工夫など、子どもたちの良いところを伸ばし、自己有用感を養っておられると思いました。 低学年は大きな声で、高学年は会釈などTPOに応じた挨拶ができていく児童が多い印象です。 久しぶりに学校に来ましたが、子どもたちが大きな声で「こんにちは」と、挨拶してくれたのがとても気持ち良かったです。その声の大きさが授業ヘイコールになるとうれしいです。 行動すること、地域の人と話すこと、多くの経験をさせてほしい。
		体力を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストで、70%以上(昨年度61%)の項目が県平均または全国平均を超えるようにする。 食に関心を持ち、食べ物を好き嫌いせず食べようとする児童を75%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの県平均や昨年度の自己記録をもとに、自己目標を設定させる。 体育科を中心に体づくり運動に取り組む。 給食時間や各教科等の時間を活用して、食に関する指導を行うとともに、掲示やたより等を活用して、食に関する興味・関心を高める。 	41.6%	59	D	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に課題のある50m走、反復横跳びの2種目の記録を測定した結果、県平均かつ、全国平均を超える項目は、男子は50m走では6学年中4学年、女子は6学年中2学年、反復横跳びでは6学年中3学年、女子は6学年中2学年(男子58%、女子33%)だった。 好き嫌いせず食べることが大切だと理解し、残さず食べるようにしている児童の割合は89%であった。各教科等において食に関連した内容を学習すること等を通して、食への関心が高まりつつある一方で、食事のマナーについては課題が残る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 体力も食事のマナーも学校だけで向上させるのは難しい部分があります。中学でも家庭や地域との連携を図ることが大切だと考えています。 児童の体力低下に関して、やはりコロナ流行により、活動の低下が影響していると思います。体育の際にサーキット運動、リズムジャンプなど工夫されておられ、好感を持ちました。 食事のマナーについて課題があります。(食器の持ち方、姿勢など) みんな同じ量の給食ではなく、個に合わせて食べさせることから食品ロスにならない、食べきった満足感を持たせるのはどうでしょうか。 体育に関する指導を充実させてほしい。現代の子どもは、教えないとわからない。
		づく信頼りさをれる行う学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域に信頼され、開かれた学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「きさ」小中一貫教育推進協議会の計画のもとに、小中9か年を見通しためざす子ども像に向け、連携教育の実施、充実を図る。 学校により、ホームページで小中連携教育の取組を具体的に分かりやすい内容で保護者、地域に情報提供を行う。保護者アンケートを実施し、小中連携教育に関わる保護者等の理解を把握し、取組に生かす。 	93%	103	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学校ホームページ等を通して、保護者や地域に小中一貫教育の取組状況について情報発信することができ、保護者の理解を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信をさらに充実されるとともに、学区内の連携をさらに深めていく。 コロナ禍で保護者や地域の方が学校に来る機会が減っているので、たよりやHPでの情報発信はますます大切になっていきます。 学校だよりやホームページで情報発信を積極的にやっていると思います。 いろいろなツールで発信して下さるの、ありがたいです。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の児童に向き合う時間の割合を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革により、児童に向き合う時間の割合が増えた実感を感じる教職員の割合を80%以上(昨年度82%)にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとのアンケート、メンタルヘルスチェックにより実態を把握し、学校衛生委員会、企画委員会の取組を行う。 	75%	94	B	<ul style="list-style-type: none"> 教務事務支援員や介助指導員・学校支援員等の人的配置が働き方改革や児童に向き合う時間の確保に大きくつながっている。 最終退校時刻の設定や行事の見直し、業務のデジタル化も大きな効果があった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学もですが、学校で改善していくべきものと行政の支援が必要なもの両輪で進めていきたいと思います。それと最も大事なのが、「職員の意識」です。学校衛生委員会等でしっかりと現状の共有と意識改革をする必要があります。 吉舎小は、児童に対する職員数を見ると手厚い印象です。男性職員も育休を取っておられ良いことだと思いました。 十分な加配をしていただいています。今こそ改革に向かって頑張ってください。 	

(評価)A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60